



化学工学会エレクトロニクス部会ニュースをお届けします。内容は、平成30年度第5回幹事会のトピックです。

## ■2018年度第5回幹事会トピック

- ・日時 平成30年(2018年)12月14日(金) 14:00~17:30
- ・場所 住友ベークライト株式会社本社20階(天王洲パークサイドビル)
- ・出席者 近藤部会長, 横沢副部会長, 萩野, 嘉田, 薦田, 鉦(はばき), 及川, 吉野 各幹事の8名(敬称略)
- ・議事進行 横沢幹事

### 1. 前回(10/19)幹事会議事録の承認

### 2. 会員異動, 幹事名簿確認

- ・長木副部会長の米国赴任に伴う退任が承認されました。後任は調整中です。

### 3. 会計報告

平成30年(2018年)度10月~11月度の会計報告と, 11/2開催の第2回シンポジウム収支報告がありました。詳細は, 資料1をご参照ください。

### 4. 平成30年(2018年)度第2回エレクトロニクス部会シンポジウム報告

- ・参加者は40名(講演者を含む)でした。ご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。
- ・講演者や参加者の半分以上は関東からの参加でしたが, 関西からの参加も多くありました。大阪開催だから参加した, との感想も多かったことから, 開催の意義は高かったとの認識です。
- ・反省点として, 前回シンポジウム(8月)で整備した手順書を十分に活用できず, 担当者間の連絡が十分でなかったなどの運営上の課題, 想定通りの参加者が集まらず, 結果的に収支がマイナスとなった(事前の見積が不十分だった)点について指摘がありました。
- ・上記を踏まえ, 今後も2,3年に1度程度, 関西でシンポジウムを行うことが確認されました。関西開催の場合は認知度の不足により東京開催に比べて参加者数が少ない可能性があること, また講師への旅費負担も大きくなると想定されます。講演プログラムの充実は元より, 開催案内周知の強化, 会員にとって付加価値のあるイベントとする(たとえばシンポジウムに合わせた見学会企画)などの意見が出されました。

### 5. 2019年度予算案について

- ・2019年度(平成31年度)のシンポジウムは, 通常の部会シンポジウムと, 国際会議APCCHE2019内の部会セッションの, 2回とすることになりました。APCCHE2019でのセッション開催に当たり, 海外からの講演者招聘費用として積立金から70万円を適用することが承認されました。

## 6. 部会活性化・運営について

### ・幹事会について

幹事会は隔月開催であることから、急を要する議論はメールでも行っています。メール審議について、発議の方法や議論のすすめ方、採決方法、決議の有効性の考え方について議論を行いました。また幹事会での審議や決議の方法も合わせて、規定に盛り込む方向で継続検討を行います。

### ・幹事会講演会について

現在幹事会講演会は、次回進行役の個人的なつながりで都度講演を依頼していますが、これをあらかじめリストアップしておき、その時どきのホットトピックや、内容のバランスを考慮して選定してはどうか、との意見が出され、数人の候補者をピックアップしました。また会員特典として、ウェブページ上に専用ページを設け、講師に許諾いただいた内容について部会員限定で資料を配布することを検討します。

## 7. MATE2019 共催について

第 25 回エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術シンポジウム (Mate2019; 平成 31 年 1/29~30, パシフィコ横浜) を、例年通り共催します。当部会員の参加費は割引価格が適用 (通常 35,000 円のところ、およそ 30%引きの 25,000 円) となりますので、是非ご検討ください。詳細は下記 URL を参照願います。

<http://sps-mste.jp/mate2019/src/index.html>

## 8. 次回幹事会及び幹事会講演会

日時 2018 年 2 月 22 日 (金)

場所 住友ベークライト株式会社本社 20 階会議室

進行役 薦田幹事

講演会 パワーデバイスの極限環境下での運用に関する内容 (広島大 黒木准教授) を予定。  
部会員は、無料で聴講できます。詳細は、近日中にご案内します。

### ■12/14 幹事会講演会概要

講師 東京工業大学 環境・社会理工学院助教 <sup>はばき</sup> 鉦 広顕博士

題目 化学工学的手法を用いた水処理に関する研究

鉦博士らの研究チームでは、蒸留や吸着、反応など化学工学的な手法で、環境中の水から有機物、無機物、金属イオンなどを除去する方法を研究している。これらの技術を応用して途上国の水環境改善に取り組んでいるが、途上国では部材やメンテナンスにかけられる費用に限界があることから、現地で安価に調達できる部材や、手間がかからない手法による持続可能な水環境の維持管理が必要である。講演では実際にすすめているいくつかの事例について紹介があった。

バングラデシュでは、90 年代頃から地下水のヒ素による汚染が問題となっている。特にヒ酸や亜ヒ酸は体内でタンパク質と結合し、高い発がん性を有することが知られているが、同国ではヒ素化合物を含む水を飲料水として用いているのが現状である。この問題に対し、土壤に含まれるラテライトを固定床として用い、飲料水中に含まれるヒ素化合物の吸着除去をすすめている。ラテライトは熱帯雨林で見られる土壌の一種であり、原材料費はほぼかからない上に、鉄を含有するためヒ素を吸着する能力が高い。課題はヒ素を吸着したラテライトの処理とのこと。

この他、寿命を迎えたゴムの木を家具用に転用する際に、ゴムの木の防腐処理の過程で発生したフェノール類などの有害物質を、ゴムの木で作った活性炭を用いて吸着除去する事例や、閉鎖型 (水の入れ替え

のない) えび養殖池において、アオサなどの海藻を用いて、エサの残渣や排泄物などに起因する富栄養化物質（主に窒素化合物）を吸着除去する事例について紹介された。

講演の締めとして、排水処理や薬液再生等で課題があれば、新規のテーマとして検討したいので、ご意見をいただきたい、とのお話しがありました。日頃水回りでお困りのことがある方がありましたら、是非ともこの機にご連絡ください。また、今回の幹事会講演会には、部会員から二名の参加があり、議論に参加いただきました。引き続き皆様のご参加をお願いします。

## ■資料 1

### 平成30年（2018年）10月～11月会計報告

#### 1. 前回残高（平成30年9月末）

口座残高	<u>2,336,430</u> 円 ①
積立金	<u>1,800,000</u> 円
実質残高	<u>536,430</u> 円

#### 2. 今回収入と支出

項目	日時	内容	金額 (円)
収入	2018/10/19	第4回幹事会 技術交流会費	18,000
	2018/11/9	第2回シンポジウム 参加費	190,000
	2018/11/9	交流会費	72,000
<b>収入計</b>			<b>280,000</b> ②
支出	2018/10/19	第4回幹事会 飲み物代	2,970
		技術交流会	24,000
		交通費	84,676
	2018/11/2	第2回シンポジウム 会場代	52,140
		講師諸謝金	269,100
		交流会費	105,000
		その他開催費用（事業費、雑費）	3,550
	2018/11/9	源泉徴収税	30,596
<b>支出計</b>			<b>572,032</b> ③
月次収支			△ 292,032 ②-③
全体収支 ①+②-③			<b>2,044,398</b> ④

#### 3. 残高（平成30年11月末）

口座残高	<u>2,044,398</u> 円 ⑤
積立金	<u>1,800,000</u> 円
実質残高	<u>244,398</u> 円

④の全体収支と、⑤の口座残高（平成30年5月末現在）が一致していることが確認された。